

## Comment

### **Antibody reactivity against *Helicobacter pylori* proteins in a sample of the Spanish adult population in 2008-2013**

Helicobacter 22: e 12401

---

本検討はスペイン全土から5つのがん種における症例対照研究で集められた検体を使用して *H. pylori* 感染率と特異タンパクに対する抗体の陽性率を検討したものであるが、年齢層、あるいは性別、出生地で特異タンパクのパターンが異なることから菌株が多様に存在すること、そして時代の経過により菌株の病原性のパターンも変化してきていることを明らかにした報告である。*H. pylori* 関連疾患の易罹患性は環境要因や宿主の遺伝的要因とともに、病原因子を含む菌側要因が密接に関与しているが、本検討の結果を考慮すると、菌側要因の影響で消化性潰瘍や胃がんの発症率が変化している可能性が考えられる。このような菌株の多様性を考慮した疫学研究を本邦で行うことはできないことから、たいへん興味深い論文と思われる。

(滋賀医科大学医学部附属病院光学医療診療部 杉本 光繁)

---